

## 宮崎県 「水土里ネット都城市高木原」～夢の農場クリエイター～

役員：15人、職員：2人、組合員：487人、受益面積：294ha

### 1. 地域の概要

水土里ネット都城市高木原は、宮崎市まで約1時間、鹿児島市まで約2時間のところに位置する、西は霧島山地、東を鰐塚山地囲まれた盆地にある水田地帯である。

昭和40年代になると、殆どが土水路であった用水路は老朽化が進行し、維持管理や管理費用において問題が生じてきたことと、昭和49年に宮崎自動車道の路線とインターチェンジ周辺が工業団地として開発されることが打ち出され、土地改良区では、これらに対処するために土水路である用水路を廃止し、大淀川から直接ポンプアップによる水源に切り替え、用水路はパイプライン方式とし、ほ場を40a区画に整備し生産を高める基盤整備計画を策定した。この計画は県営かんがい排水事業とほ場整備事業をそれぞれ昭和53年、54年より実施された。前者は平成元年に大淀川の揚水機場とほ場整備事業の受益地近くに排水地が整備され、それにつながるパイプラインが完成し、後者は平成4年に210haが整備され竣工している。

このほ場整備では、畦畔の管理が容易な用排水路の地下埋設化が取り入れられた。用水は、パイプラインによる自動給水栓方式にすることで水管理を容易にし、また排水については地下排水方式の新技术が採用された。この2つの方式によりほ場が大規模に連担化し、受益減歩も少なく維持管理費も大幅に削減された。このほ場整備の成功により、農地の所有状況は従前地の204団地から108団地に集約された。ほ場整備を契機に意欲ある担い手による大規模かつ計画的な生産活動と地域住民の雇用、収入の確保に貢献するため「夢ファームたるぼう」、「きっとかな田」「きりり農場高木」の3つの農業生産組合が設立され、有機肥料を積極的に使用した、馬鈴薯、甘藷、大豆、飼料等の営農が展開されている。

現在では、水土里ネット都城市高木原は、294haの農地と約487名の組合員を抱えており賦課金の徴収率100%で、耕作放棄地もなく、県内でも注目されている。

### 2. 取り組みの背景、きっかけ

当地域の農家一戸当たりの農地面積は、1ha未満と零細であり、効率的な生産活動は不可能な状況であり、水土里ネットの運営にも影響を及ぼす程であった。そのため農地の生産基盤整備と集団化、利用権設定等による大規模化を目指し、低コストな生産体制を作ることが緊急の課題であった。

水土里ネットでは、それらを実現するために、水田の大区画化や用排水路、農道の整備が必要不可欠であると考え、様々な課題を解決しながらほ場整備事業に着手し、現在のほ場を完了した。その後、水土里ネットと集落別に設立されていた農事振興会は、ほ場整備を契機として1集落1農場の集落営農計画を立て、説明会等を開催し実行に移したが、昔ながらの農業から脱皮ができず、計画を実現することはできなかった。

そこで水土里ネットでは、長い歴史の中で培ってきた組織力をいかし、水管理機能の見直しや多面的機能の確保など地区農家や地域住民が期待する役割に対して、地域住民みんなで考えることとし、平成14年に21世紀創造運動を始めて課題解決をすることとした。地域では、昔ながらの「絆」を大切に、新たな地区のコミュニティーを形成し、集落営農組織を立ち上げることとした。

### 3. 運動の基本理念等 『未来に向かって夢がきつときりり輝く私たちの農業』

水土里ネットでは、1集落の1農場を基本理念に、地区内に3集落の営農組織を立ち上げる事を目標に掲げ、「未来に向かって夢がきつときらり輝く私たちの農業」をスローガンとして活動を展開している。

まず、農家自身のまとまりをつくるための用水管理のブロックローテーション化や共同防除の推進、農地の集団化事業、農業用施設の適正管理を通じた多面的機能の確保などの活動を実施している。また、地域の新たなコミュニティーづくりの活動を理事長自らがリーダーシップをとり、祭り等のイベントの開催や小学生やPTAなど多様な組織との連携による交流活動を実施し、生き生きとした地域づくりをすることが目標達成に繋がると信じて活動をおこなっている。

現在では3農場が農業法人として立ち上げられており、またこの創造運動の活動が認められ農林水産省がおこなっている「食と地域の「絆」づくり」で平成23年度に認定され、先駆的優良事例として、全国に発信されている。

#### 4. 主な運動の概要(開始年)

##### ①内部運動

- 農業研修会(H10～H14)
- 集落営農に向けた取り組み(H14)

##### ②外部運動

- 輝け夢ファーム探検記(H15)
- 学校教育との連携で担い手づくり(H1)
- しめ縄づくり(H13)
- 沖水まつりで地域交流活動(H13)
- 「食と地域の「絆」づくり」選定への挑戦(H24)

#### 5. 運動全体の成果と今後の展望

水土里ネットは、ほ場整備事業を契機に1集落1農場を目標に計画した。それには集落のコミュニティーの再構築を必要不可欠であることから21世紀創造運動に取り組んだ。成果としては、取り組みから6年目にして最後の農事組合法人が立ち上げられ3集落3農場となった。

今後は、この3農場の経営の安定化を図り、地区での雇用促進やだれもが住んでみたい農村集落の形成を目標に、尚一層活動を充実させ目標を達成していくこととしている。

